

おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 13 号 (8 月 29 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1 羽黒戦 やはり大敗

学校祭の翌日の 8 月 27 日(月)、山形市陸上競技場にて Y1 の羽黒戦が行われました。山東は前号にてお伝えしたように、前節は東海大山形に 0-8 で蹂躪されている。そういえば、羽黒との前回の対戦では、県総体前に 0-7 で大敗した記憶がある。あのときは、優勝した地区総体の翌日であり、地区優勝した山形東を少し警戒して試合に臨んでくれた羽黒ですが、今回は実力をすでにみきられている。羽黒も学校祭翌日ですが、羽黒は前日、同じく市陸にて日大山形と天皇杯の県予選決勝を戦っており、先発イレブンは疲労の色が濃い¹。ということで、羽黒はメンバーを落とし試合に臨む(前日と同じ先発メンバーは二人だけ)。通常このようにメンバーを落とされたら、「いいか、舐められたのだぞ。こういうときにやられたらダメだぞ」と選手にプレッシャーをかける(というか発奮を促す)のですが、羽黒は先発以外にも力があるでしょうし、現在の山形東、プレッシャーを力に換えることのできるチーム力とは思えない。

とまあ、こんな弱気になりながらも、監督として余計な力は抜けている。やはり、前節の大敗が、「よしなにして下さい」という落ち着きを生んでいる。諦めている、というより、力の無さをばれたくないと「世間体」を気にして実力以上の見栄えを願う気持ちがない分、今あるだけの力を出すだけ、という清々しい心境を作り出している。試合が始まると、ピッチの芝が荒れているということもあり、羽黒のパスワークの乱れが多い。少し時間が経つと、徐々に山東ペースに。通常、清野 OB 会会長²や顧問、マネージャー、控えメンバーが座るベンチと保護者の皆さまが陣取る応援席とは平面の関係になるので、お互いの声の伝わりはいまいちなのですが、市陸は観客席になっている分³、お母様方の応援の声がビシビシ伝わる。山東が攻め込む時間が多いので、「黄色い声援」が響く。外から中に入りこむリクにクリロンからの浮き球パスが通ると、リクが絶妙のトラップをし、左足のボレーシュート！ 息を飲みましたが、まだまだ、利き足の逆足のボレーがうまくできず、ふかしてしまう。この惜しいシーンに始まり、左サイドを突破したコウタからのセンターリングを UB がフリーでヘディングしたのもゴール前の決定的シーン。しかし、外れ、「なんだ UB、そのへなちょこヘディングは。ただこの試合、羽黒がメンバー落としてやり続けると、山東にとって千載一遇のチャンスなんでは？」と思い始める。ボールポゼッションで上回っているかどうかは別にして、前半、ゴール前のチャンス数は明らかに山東に分がある。チャンスを作れてもゴールできないのは、まさに決定力不足という名の実力不足なのですが、このまま攻めたらいつ

¹ 日大山形との死闘は、1-0 で日大山形の勝ち。羽黒にこれまでタイトルを獲られ続けていたので、2 種のチームで羽黒以外のチームが優勝するのは山形の 2 種サッカー界の活性化のため重要でしょう。

² もちろんこの試合もご臨席されました。

³ 両チームのベンチも南側の観客席という簡易式で試合を行いました。

かゴールできるのでは、という期待感をもたせる前半の展開。

しかしながら！ 好事魔多し、とでも言えるでしょうか。左 SB がボールを奪おうとつかけたが相手にスクリーンされ(右足でブロックされ)、つかかけが空振りにあったそのボールを、右足アキレス腱周辺を蹴られ痛みがある状態で相手のその右サイドの選手がファーサイドにすばらしいセンターリング。それをブルアウェイでマークを外した長身選手に簡単にヘディングで合わせられ、失点。(ボールとマークする相手を同時に視野にとらえ続ける基本中の基本の)同一視のポジションを取り続けられない山東 DF の欠点を冷静に突く羽黒のプレー。それにしてもすばらしいセンターリングでした⁴。

その後、羽黒ゴール前でリクがヘディングしに行ったが、その寸前にボールを蹴り出した相手の足に頭を蹴られ、審判の笛が鳴る。「あ~PKだ。とはいえ、同点が約束されているわけではないが・・・。」と、PK=得点と安心しないよう落ちつこうとしていると、雲行きが怪しい。「もしかして、間接FK? それはないだろ~」とつぶやくも、無力。主審の判定は間接FK。足を高く上げる危険なプレーで間接FKというならわかるが、相手の足とほぼ同時に頭を出した選手が実際に蹴られたわけで、ボールを挟み足と頭がぶついている以上、直接FKの反則を取るべきでは⁵? と思いましたが、柔道と異なり主審の判定は絶対。「この間接FKを決めればいいんだよな」と思いプレーを見つめました。・・・ゴールラインに並ぶ羽黒の選手達は、山東の選手がボールを最初に触ると前にダッシュし、結局、シュートしに行った選手の近くまで来ていた羽黒の選手にボールが当たり、チャンスをふいにする。「PA内であれだけゴールに近い間接FKなら、そのまま蹴って相手に当ててゴールを狙うのが常套手段なんだよ」とベンチでは思っていたのですが、選手にその感覚がなかったのが残念。ともかく、足を高く上げる相手に負けず頭を出したリクの勇敢なプレーは高く評価されるべきと感じました⁶。それでこそ、山形東の選手!!!

後半は、徐々に羽黒の主力の選手の数が増えていったのと、山東の元気がなくなっていたのとで、東海戦同様、ワンサイドゲームに。4点入れられ、結局0-5の大敗。前半何点か入ってもおかしくなかったですが、こうも守れないと、結局後半逆転されただろうな、と思わせる。1対1の粘り強い対応(1stディフェンダーの素早い決定と基本最後まで対応し続ける責任感)、及び、カバーリングの選手の的確な判断という、基本的ではあるが高いレベルで行うことは難しいディフェンス力が問われている。ん~、粘りの山東の道遠し。次戦も応援よろしくお願いします。

9月1日(土) Y1 鶴岡工業戦 @天童ラグビー場(県総合運動場) 12:00~

⁴ つっかけていった山東左SBのプレーは、結果的にうまく行きませんでした。ボールを前で奪おうとした積極的なプレー。こういう「ミス」は絶対にけなしてはいけません。SBには、ボールを奪いに前に行くべきでなかった、と反省する前に、どうしたら前で奪うことに成功したのか、と考えてほしい。

⁵ ペナルティエリアPA内の直接FKはPK。

⁶ リクはこのプレーで脳しんとうになり、後半ピッチに立てませんでした・・・こういう勇敢なプレーが損を招かないためにも(相手側の視点からものを言えば、足を上げて頭を蹴ってしまい手酷いっぺ返しをくらわないためにも)、PKのジャッジがほしかったのですがね~。

斎藤GKコーチ就任発表

7月より斎藤雄（ゆう）さんが GK コーチに就任して下さいました（名和トレーナーと同じ東根市羽入在住）。斎藤 GK コーチはサッカー部 OB で顧問今野と同期（43 回卒）。今野同様、体は十分に動きませんが、選手と一緒に GK 練習をやって下さるだけでも、選手には刺激がある。斎藤 GK コーチ、よろしくお願いします！

地区新人大会の組み合わせ決まる

地区新人戦の組合せが下記のように決まりました。村山地区からは全 7 チーム出場できる。他地区からすればうらやましい数ですが、数が多いのは強豪チームが多いということであり、出場権の争いは熾烈となるでしょう。謙遜ではなく、山東新チームの実力を考えると、県新人出場は微妙なところ。とにかく、頑張ります！！